

努力賞

「ひまわりのおか」

峡田小学校 五年 門内 美穂

やなぎ田先生、こんにちは。

やなぎ田先生は四年前の三月十一日に起きた東日本大しんさいをおぼえていますか。

私はそのころまだ一年生でした。

この日に起きた大きな地しんをきっかけに、ほんの少しのゆれでも、（たいへんだ。たいへんだ。）と心の中でさけびすぐに机の下にもぐっていました。

しかし、東京よりも大きなひ害があった所がありました。それは宮城県です。そこには大川小学校という小さいけれどみんな仲よしの小学校がありました。その学校が地しんのえいきょうで、とてつもなく大きいかいぶつ

のようなつなみに、のみこまれてしまったのです。

やなぎ田先生はこの場面をみてどのように感じますか。

私は、ふだんならおだやかでみんなをたのしませてくれる波が、とつぜんにもものすごく大きくなみにかわり、大事な人、家族、友だち、そしてこの絵本をかいだ八人のお母さんの子どもたち全員を命をどんうばい取っていくつなみが、かいぶつのようにおそろしく感じました。また、それにより命をうばわれた子どもたちを思ってお母さんの気もちは、いたいほどつたわりました。

最後にこの本は、ただ地しんや、つなみのおそろしさぐらいしか知らなかった私に命の大切さ、家族の大切さ、そしてこれから生きる勇気をおしえてくれました。

これからは、今という時間を大切にしてください。でなくなつた、もっとたくさん生きて笑いたかった人たちの分までしっかり生きて行こうと思いました。